

【教育目標 夢中になる とともに創る】



# きらきら

新潟市立沼垂幼稚園  
園だより  
令和6年12月13日発行

## 目的の実現に向けて対話し試行錯誤する

園長 青木博子

先日、当園の年長組による生活発表会が、保護者の皆さまをお招きして行われました。

私がここに着任して、とても素晴らしいと感動したことの1つが、この生活発表会です。既にご存じの通り、当園の生活発表会は、ストーリーや配役、衣装が予め決まっています。動きやセリフの一言一句を間違えずに覚え、完成度を高めていくものではありません。表面的な見かけの良さではなく、子どもたちの「学び続ける」姿を最も大切にしています。



生活発表会に向かって、どのようなストーリーにするか、表現するかを子どもたちが考え、試行錯誤してきました。毎日、課題を話し合って解決し、子どもたち自身で劇遊びを更新してきました。そのプロセスの中で、子どもたちは、ずっと学び続けてきました。生活発表会の当日も、セリフは全てアドリブなので、相手の動きや台詞に応じて、子どもたちは、自分で考え、柔軟に様々な変化に対応していったのです。そして、この劇遊びは、生活発表会が終わっても、続いています。

今年の年長児は、古田 足日さんの「おいしいのぼうけん」(童心社)が大好きになり、劇をすることに決めました。その子どもたちの生活発表会に向けての様子を紹介します。

「砂漠で冒険したい」「冒険だから宝を探そう」など、想像を膨らませながらストーリーを創り出していきました。そして、「登場人物が多いから、一人で複数の役をしよう」「手の空いている人が効果音を鳴らそう」などをはじめとする課題解決が、始まりました。ストーリー作りも、次々と見つかる課題も、全員が納得するまで、何度も話し合っていていきました。「一人一人が思いついたり考えたりしたことから、納得するまで話し合い、自分たちで決めて、解決する」ことは、これまで年長組が何度も行ってきたことでした。

劇には、始めのうち、セリフはほとんどありませんでした。しかし、活動が進む中で、セリフがないと冒険の様子が伝わらないと考え始めました。そこで、場面に関係するチームごとに、相談してセリフを作りました。さらに、実際に演じる中で、子どもは「言葉があることで、より相手に伝わる」ことが分かってきました。

ある日、年少組の子どもたちに劇を見せました。冒険隊が砂漠を歩いていくうちに、暑さのために倒れてしまう場面がありました。すると一人の年少児が「どうして寝てるの?」と尋ねました。その日、子どもたちは話し合い、「砂漠の厳しい暑さ」が伝わるために「太陽をつくる」ことに決めて、金色に輝く大きな太陽を作りました。

この姿は5歳で突然現れるものではありません。子ども一人一人の楽しさ、興味・関心がどこにあるかに心を寄せて、捉え続けること。一人一人の表情や言葉に心と耳を傾け、言い尽くせない思いがあればそれを補いながら、周りをつなぎ続けること。そして、異なる意見であっても、うまく言い表せなくても、安心して自分の思いを伝え合える、温かな学級風土を築き続けることを、園全体で大切にし、担任が替わってもやり続けるからこそ、その姿が現れてくるのです。それを私は、当園の教職員の姿から教えてもらいました。



## 自分のやりたいことに取り組み達成感を味わう

朝、年少組の部屋に入ったときのことで。

Aさんが細長い箱をつなげて作った掃除機でお部屋を掃除していました。廊下でお掃除をしていた先生を見て、自分もお掃除をしたくなり、素材箱の中から、ちょうどいい大きさの細長い箱を5つ選び、それをつなげてセロテープで止めてハンディータイプの掃除機を作ったのです。

ニコニコしながら床の掃除し、だんだんと部屋の隅のほうも掃除機をかけていきました。ところが初めはピンとしていた掃除機の柄がだんだんとぐらぐらしていきました。困ったAさんは「上手にお掃除ができない」と、担任に伝えました。担任は「上手にお掃除できないのね？」と困り感を受け止めると「Bちゃんが直すのが上手だから教えてもらおうといいよ」とAさんに伝えて、「Bちゃん。お願いね」と言いました。Aさんは、「Bちゃんうまくお掃除ができないの」と伝えます。Bさんは掃除機を見つめた後「後ろ（にテープ）がない」と言いました。Aさんのセロテープは箱のすべての面ではなく、片面だけ所々に貼られていたことにBさんは気づいたのです。

そこでAさんはまず、セロテープを全部剥がし始めました。試行錯誤して、ぐらぐらしない掃除機が完成したとき、掃除機を上に掲げてぐらつかないことを確かめ、達成感を味わっていました。その表情は満足感にあふれていました。

困っている気持ちを担任や友達に伝えられること、そして友達からもらったアドバイスを受け止めたこと、一度は作り上げたものを全部分解して、自分が納得するよりよいものに作り替えていく思い切りのよさに、私は感心しました。

この小さな課題解決は子どもにとって大切な学びであり、気づいて、試したり工夫したりする「考える力」や「つくってみたい」「やってみよう」という「自ら関わる力」が育まれています。

